

コンテナ型DC設置

ゲットワークスなど
新潟・湯沢町に 自然エネ活用

【さいたま】新潟県湯沢町とアオスフィールド（新潟市東区、佐藤文則社長、025・273・9011）、ゲットワークス（さいたま市中央区、天野純社長、048・857・0715）は、雪や外気、河川水を冷却源に使うコンテナ型デー

タセンター（DC）を湯沢町に設置する。消費電力を削減し、二酸化炭素（CO₂）排出を抑える。2017年4月にDC1〜2台を稼働、19年までに10台の設置を目指す。

雪や外気だけでなく、用水から河川水を引き込んでサーバーが出す熱の冷却源とする点が大きな特徴。暖冬などに左右されない安定した自然エネルギー利用を実現する。今冬は簡易スノーシートで貯雪し、17年6〜11月の第2期工事では本格的な雪室を建設する。

コンテナ型DCは海上輸送コンテナを改造し、1コンテナにサーバーラック5台（1ラック当たりサーバー30〜40台）を収容可能。簡単に移動・設置でき、構築期間が短く、費用も抑えられる。

大都市圏の大規模災害リスクを回避するDCの地方分散化に有効で、ゲットワークスはすでに福島県白河市や新潟県津南町などで同様のDCを稼働している。今後、各DC間でネットワークを構築

し、セキュリティ対策を強化する。アオスフィールドは電気通信設備会社、ゲットワークスはDC運営会社。